雑草イネが混入し被害を助長している状況も観察されたため，生産者へはcertified seedsの使用徹底を呼びかけるとともに，自家採種を規制するよう州政府に要請しているとのことだった。カリフォルニア州の水稲栽培関連の情報を扱ったウェブサイトを確認すると，雑草イネに関する規制はすでに承認されており（Californica Rice News 2018），種籾の取扱に関する規制や，州外からの水稲用機械を持ち込む際の雑草イネ検疫などが定められている。繰り返しになるが，カリフォルニアで雑草イネ対策が始まってわずか2年である。カリフォルニアと日本の対策状況を比較すると，初動対応だけみても出遅れており，反省すべき点が多い。

参考文献

Burgos, N.R. *et al*. 2014. The impact of herbicide-resistant rice technology on phenotypic diversity and population structure of United States weedy rice. Plant Physiology. 166, 1208-1220.

Californica Rice News 2018. Weedy Rice Regulations adopted. http://www.calricenews.org./2018/03/09/weedy-rice-regulations-adopted/

Imaizumi, T. 2018. Weedy rice represents an emerging threat to transplanted rice production systems in Japan. Weed Biology and Management 18, 99-102.

黒川俊二 2018. アメリカの雑草事情　その1　畑作 . 植調 52(2), 2-5.

Li, L.F. *et al*. 2017. Signatures of adaptation in the weedy rice genome. Nature Genetics. 49, 811-814.

Linscombe, S. 2015. Clearfield Rice Was Game Changer. LSU Ag Center, http://www.lsuagcenter.com/portals/our_offices/research_stations/rice/features/publications/clearfield-rice-was-game-changer

水野純一 2018. 除草剤抵抗性作物について . 植調 52(1), 22.

農研機構マネジメント技術 2018. 2025年の地域農業の姿が把握できる地域農業情報 https://fmrp.dc.affrc.go.jp/publish/ruralvision/ruralinfo/

Reagon, M. *et al*. 2010. Genomic patterns of nucleotide diversity in divergent populations of U.S. weedy rice. BMC Evolutionary Biology. 10, 180.

酒井長雄ら 2014. 長野県における雑草イネの総合的防除対策：その展開と課題 . 雑草研究 59, 74-80.

Ziska, L.H. *et al*. 2015. Weedy (Red) Rice: An Emerging Constraint to Global Rice Production. Advances in Agronomy 129, 181-228.

田畑の草種（くさぐさ）

荒地野菊（アレチノギク）

（公財）日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地　須藤　健一

キク科イズハハコ属の越年草。道端や荒地でごく普通にみられる。秋に芽生え，ロゼットで越冬し春から夏にかけて50cmほどに茎が伸び，先に総状花序をつける。花をつけると主茎の伸長は止まり，枝を出す。この枝によりオオアレチノギクと区別できる。

明治の中頃に渡来したとされ，同属の先達であるヒメムカシヨモギを追って全国に広がっていった。しかし，近年，昭和初期に渡来した後進のオオアレチノギクに道を譲りつつあるのかあまり見かけなくなってきた。

「野菊」と名前がついていながらおよそ「菊」らしからぬ「アレチノギク」であるが，俳句の世界では「菊」ゆえにか秋の季語としての位置を確保しているようである。

いつも雲影荒地野菊は群れて透く　中島斌雄
出棺や荒地野菊を見てゐたり　原田青児
筑紫路はあれちのぎくに野分かな　原石鼎

3句目の石鼎の句は大正2年の作である。大正に入ると，明治の中頃に渡来したアレチノギクは筑紫路に広がっていたことがわかる。この年，父に拒絶された石鼎は筑紫路を放浪生活へと落ちていくのである。折しも野分がアレチノギクにも石鼎にも容赦なく吹き付けるのであった。

最近あまり見かけないアレチノギクであるが，先達のヒメムカシヨモギは先達だけに隅々にまでテリトリーを広げている。墓地とて例外ではなく，飯田龍太にこんな句があった。

ヒメムカシヨモギの影が子の墓に　（俳句の花・下巻）

幼くして先に逝ってしまった子の墓にヒメムカシヨモギが影を落としている。1m以上に伸びたヒメムカシヨモギである。生きていればもうそのくらいの背丈になっていたであろうに，と思う親心。この句にはヒメムカシヨモギがふさわしい。親は子がすくすくと，まっすぐに成長することを夢見ている。